

マクロ組織論

参考文献1 『大学4年間の経営学が10時間でざっと学べる』高橋伸夫より拝借

参考文献2 『ケースに学ぶ経営学』東北大学経営学グループより拝借

種々雑多なネットの拾いもの

資源依存理論

相手組織がパワーを持っているのは、簡単に言ってしまうと、自分たちが相手組織に資源を依存しているからです。たとえば、基幹部品をたった1つのメーカーから買っていただければ、そのメーカーからの部品供給が止まった途端、工場は立ち行かなくなるので、どうしてもその会社の言うことをきかなくてはいけなくなります。こうした場合、基幹部品の供給元を複数にして、資源依存度を下げればいいのです。

多くの組織論の研究が、いかに資源を有効かつ効率的に活用するかに焦点を当てている中、資源依存論は、そもそも資源をどのように獲得するのかという問題意識を出発点としている。①ある資源の入手が財・サービスの生産に決定的に重要で、②他の組織がその資源の配分と使用のコントロール権をもっており、③代替的な資源が存在しない状況では、組織の存続と成功は、その資源が入手できるか否かに依存する。つまり資源依存論とは、その広範な理論構築をあえて一言で表すならば、多様な組織や組織間関係の形成と展開を、資源の重要性和希少性に起因するパワー不均衡という統一的な視点から明らかにしようとする視座だと言える。

組織が他の組織から制約を受けていても、打つ手はあると主張します。

(ここで資源とは経営資源であり) 経営資源には「ヒト、モノ、カネ、情報」が含まれます。